

カリキュラム区分		現行カリ			シラバス区分		専攻科		
科目区分	科目コード	履修時期		開講専攻	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位	
		学年	学期						
助産学基礎領域	S105	1年	前期	助産学専攻科	必修	生殖医療と生命倫理	15	1	
						Reproductive Medicine and Bioethics			
担当教員									
今村 朋子		草薙 康城		山本 美和＊					
関連するDPキーワード									
○	① 生命の尊厳を基盤とし、助産師としての倫理観と責任感を持ち、対象を尊重することができる。								
	② 助産師としての役割や責務を自覚し、助産師であることに誇りを持つことができる。								
○	③ 女性のリプロダクティブヘルス/ライツに関する健康課題について、広い視野から支援することができる。								
	④ マタニティサイクルにある対象の個性性を尊重し、対象のもつ力を最大限にひきだすための基本的な助産診断及び助産技術を獲得できる								
	⑤ 女性が安心して子どもを産み育てられる環境を整えるために、地域と密着した子育て支援活動が理解できる。								
○	⑥ 周産期医療の高度化や多様化する価値観、時代のニーズに柔軟な対応ができる能力を身につけている。								
	⑦ 助産ケアの質の向上を図るために、研究的視点や科学的根拠を活用し、さらに探究する力を身につけている。								
授業目的									
生殖補助医療の発達に伴い、様々な診断や治療が身近なものとなった現代では、医学的知識だけでなく、生命倫理的な視点から現象を捉え、考える能力が重要である。本授業においては、生命倫理に関連するトピックスを通して、様々な立場から対象を理解し、援助者である自己理解を深める。									
到達目標（授業目標）									
1. なぜ、生命倫理が論じられるようになったのか、出生をめぐる生命倫理の特徴やそれに伴う助産師のジレンマを通して、自己の考えを深めていくことができる。									
2. 今日の生殖医療の現状と課題（不妊治療や、出生前診断、生殖補助医療等）と、それを受ける対象に対する心理・社会的考察を通して、助産師の役割について自らの考えを述べることができる。									
回	授業計画（項目・内容と方法・担当者）								
1回	助産師と生命倫理：生命倫理の5原則 助産師の倫理綱領 出生をめぐる生命倫理の特徴【ディスカッション課題提示】 [今村]								
2回	不妊の診断と治療：不妊の配偶者間・非配偶者間の生殖医療 不妊治療の流れ 体外受精〔減数手術含む〕に伴う倫理的課題 [草薙]								
3回	出生前診断：出生前診断・着床前診断の実際 出生前診断に伴う倫理的課題 障害胎児の治療的問題 [草薙]								
4回	遺伝学・遺伝性疾患：遺伝性疾患とは 診断方法と治療 遺伝性疾患に伴う倫理的課題 [草薙]								
5回	生殖医療における対象理解と相談支援（１）：生殖医療を受けるカップルの対象理解とその看護 [山本]								
6回	生殖医療における対象理解と相談支援（２）：生殖医療を受けるカップルの意思決定支援 心理的・社会的状況と相談支援の実際 生殖医療に伴う倫理的課題と助産師としての役割 [山本]								
7回	助産師と生命倫理：【ディスカッション】障害を持つ新生児の家族の援助 [今村]								
8回	ペリネイタルロス：死産・新生児死亡で子どもを亡くした家族の援助 [今村]								
9回									
10回									
11回									
12回									
13回									

